

小さなバッジ

八尾東 日和佐 良太郎

私の襟につけたこの小さなバッジは、いつも私をじっとみつめている。そして、私の心に重くのしかかっている。この小さなバッジが何故こんなに威力を持っているのか、私には解らない。

私のロータリー歴はまだ四年足らずである。最近になってロータリーとは何かということが判りかけたところである。国際ロータリー傘下にあるロータリークラブである故、定款、細則等、実に完璧な規則である。そして、その条文を支えているR.I.理事会決定事項に至ってはまさに脱帽である。私はこの手続要覧にはよく悩まされている。ことという急所では具体的に示されておらず、「何々が望ましい」「奨励されている」等、実に巧みに表現されている。私達はこの解釈でしばしば討論しているが、そのことは実にナンセンスだと冷笑する人がいないとは限らない。小さなバッジはこれらの苦勞も知らずに冷たい目で私をじっとみつめている。

私はこのバッジと絶えず行動を共にしている。ので、つねに厳然たる態度でのぞみロータリアンとしての誇りを傷つけないよう品行方正にな

らざるを得ない。最近私の生活態様も徐々に変わりつつある。もし私に気の休まることがありとすればゴルフだけである。ロータリークラブのゴルフ会には努めて参加しているが、今だに優勝したことがない。クラブの運営もむつかしいが、ゴルフもむつかしいものと痛感している。

ロータリー名言集に「奉仕とは理想ではなく理想に達する大道である」といわれている。ロータリーにおいてよく「建前はこうであるが、実際にはその通りにいかない」といわれるが、この言葉がマンネリ化しているきらいがある。

このようなあきらめムードがクラブの魅力をなくし、発展性を阻む場合がないとはいえない。理想に向って一步一步と大道を進んでゆくロータリアンの姿こそが尊いのではないだろうか。そしてその道でいろいろなことを教えられ、勉強してゆくのも人生修業の一つかも知れない。

ロータリーとは人生道場だ、ともいわれている。或る人からみればロータリアンは修業僧のように映っているかも知れない。そしてその修業をなし遂げた人こそ世間の注目の的となり、尊敬される立派なロータリアンたり得るのである。

この小さなバッジが私に向って、何時微笑んでくれるのであろうか。その微笑があった時こそ私は立派なロータリアンとしての資格が充分に備ったときだと思っている。(大阪府・公認会計士)